

オンライン版 治療（C）実践コース 指針

◆ 1回目（セッション1）

GIO：検査結果や子どもの行動観察からこどもの全体像を把握する。

SBO：①こどもの検査結果・面接からこどもの感覚統合的問題を解釈する

②こどものセッションから得られた情報を整理し、こどもの強い能力や弱い能力を把握する。

③こどもの感覚情報処理プロセスの解釈と介入目的の仮説を立てる

④遊び心・・

◆ 2回目、3回目（セッション2）

GIO：子どもの解釈から介入目的を明確化し、適切な活動の選択、展開が実践できる。

SBO：①こどもの検査結果からこどもの感覚統合的問題を解釈する

②セッションから得られた情報をからこどものもつ感覚情報処理プロセスを推論する

③①②を統合し、こどもの感覚統合障害について理解する

④子どもへの介入目的を明確化する

⑤目的に応じた介入方法（遊具の治療的活用や関わり方など）を理解し、実践できる

◆ 4回目、5回目（セッション3）、最終症例レポートの提出

GIO：子どもの特性や反応に応じたより高次の適応水準を引き出すことができる

SBO：①子どもの反応を感覚処理の視点で分析することができる

②子どもの反応に応じた治療的活動の展開とその解釈ができる

③子どもの安全を配慮した遊具の使用や介助位置を的確に判断した治療を展開することができる（リスク管理）

④自己の治療形態を分析することができ、今後の実践に活かすことができる

◆ 補填セッション ; Fidelity in Sensory Integration Intervention より（認定試験判定項目）

以下のゴールの確認

①こどもとの治療的関係を確立することができる

②こどもの遊びに対する内的欲求を支持することができる

③物理的・身体的・情動的安全性を保証できている

④ジャストライトチャレンジとなるような活動を仕立てることができている

⑤活動の選択を協業し、成功体験として締めくくるように仕立てられている

⑥行為機能や行動の組織化への挑戦に導くことができている

⑦感覚探索の機会の提供ができている